

校訓

「日新」 <昨日より今日、今日より明日、伸びていこう>

— 夢や希望を持ち、日々に新たに向上しようとする —

目指す児童像

- 進んで学び、深く考える子（知）
 - ・ 自ら学習し、基礎・基本を身につけている。
 - ・ 人の話をよく聞き、自分の考えを発表できる。
- 礼儀正しく、思いやりのある子（徳）
 - ・ 正しく挨拶ができる。
 - ・ 自分や他の人の「よさ」が分かる。
- 心と体を鍛え、たくましい子（体）
 - ・ 命（心・体）を尊ぶ。
 - ・ ねばり強く最後まであきらめない。

目指す教師像

- 一人一人の子どもを愛し、教育に対する熱意と使命感をもつ教師
- 笑顔で子どもの「よさ」を見つけ、認め、伝え、励まして伸ばすことのできる教師
- 「すぐ動く」「みんなで動く」をモットーに子どもや保護者の気持ちに寄り添い、信頼される教師

目指す学校像

「奥小がすき」「〇〇がすき」

- あったかい学校
- わくわくする学校
- げんきがでる学校

確かな学力の育成

「わかる」「できる」「身につく」「活用できる」楽しい授業を実践し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める。

- ①【授業規律の確立】基礎・基本の定着のため、学習規律を徹底する。
- ②【授業の充実】授業のねらいと評価を明確にし、的確な指導と支援を行う。また、統一した授業スタイルで授業を実施する。
- ③【言語活動の充実】発達段階に応じた「話し方」や「聞き方」、「話し合い活動」を充実させることで、児童の思考力を高め、理解力を深める。
- ④ 児童がわくわくし、学習の見通しが持てる授業の導入を目指す。

豊かな心の育成

子どもが笑顔で明るい学校生活を送ることができるように、豊かな人間性や社会性、自尊感情（自己肯定感・自己有用感）を高める取り組みを進める。また、基本的な生活習慣を身につけさせ、規範意識を高める。

- ①【礼儀正しい態度の育成】気持ちの良いあいさつが響く、学校をめざす。また、場にふさわしい正しい言葉遣いを指導する。
- ②【規範意識の育成】集団の中で生活するときの「ルール」を身につけさせる。
- ③【心の居場所づくり】一人一人の「心の居場所」や活躍できる場をつくり、児童が互いに認め合い、安心して学校生活を送ることができる学級づくりに努める。
- ④【いじめや問題行動への対応】Q-U検査・日々の観察・児童アンケート等を分析・活用し、児童理解に努める。いじめや問題行動について早期発見し、組織的に対応することで、早期解決を図る。児童の心の相談に積極的に対応できるようにする。
- ⑤【道徳教育の充実】全教育活動で道徳的実践力を高める指導を行うとともに、道徳の授業の充実を図る。
- ⑥ 児童のこころがあたたかくなるような取り組みや行事を実施する。

健やかな体の育成

子どもたちが見通しをもって、粘り強く取り組む態度を育てる。また、保健指導と安全指導を通して、自分の安全や健康の保持・増進への意識を高める。

- ①【ねばり強く取り組む態度の育成】授業や行事などに目標をもって粘り強く取り組ませ、心と体を鍛える。
- ②【体力向上の取組】体力テストの結果を活用し、体育の授業を中心に、児童の体力向上の取り組みを進める。
- ③【健康・体力維持増進】自らの健康に関心を持ち、基本的な生活習慣・体力の維持増進に努める意識を育てる。
- ④【安全指導の推進】けがや交通事故防止、自然災害など安全に関する対応について考え、「自分で自分の命は守る」という意識を育てる。
- ⑤ 失敗してもあきらめない粘り強さを育み、心のレジリエンスを高める。

信頼される学校づくり

魅力ある教職員集団をめざし、校内現職教育の充実を図り、教職員の力量向上に努める。また、学校運営協議会を基盤として、保護者・地域との連携と協働のもと、信頼の応える学校経営に努める。

- ①【授業力の向上】「わかる」「できる」「身につく」「活用できる」楽しい授業をめざし、毎日が研修という意識を常にもち、日常の授業を展開する。
- ②【校内現職教育の充実】校内現職教育を計画的に行い、教職員としての力量を高める。
- ③【教育活動の活性化】「子どものために」を常に考え、「さらによりよくするには」を念頭に置き、児童の実態や現状を分析し、計画、立案、実施し、教育活動の活性化を図る。
- ④【情報の共有化】児童にかかわる情報の共有・一元化し、教育活動の活性化、指導の充実に活用する。また、「一人で抱え込まず」、チームによる迅速・誠実・的確な問題解決を行う。（報告・連絡・相談・記録の徹底）
- ⑤【目的意識と計画的な教育活動】1学期「基礎的な土台を築く」、2学期「児童が力を発揮し、感動を共有する」、3学期「成長を実感する」とし、年間を見通し、明確な目的を持って教育活動を進める。
- ⑥【教職員の働き方改革】子どもたちと向き合うために、教職員のウェルビーイングな働き方改革を進める。